

日本の美意識

# 刃剣と金工

刀匠にインタビュー！

「日本刀を作る職人「刀匠」になつたきっかけや、刀匠の仕事をお話してください。」

特に理由はないですけど(笑)、腕一本で稼げる職人になりたいと一念発起したのが25歳の時です。職人の中でも特に刀鍛冶がかっこいいなと思い、1年かけて師匠を探し、弟子入りのため岐阜へ移り住みました。岐阜では25代藤原兼房刀匠のもとで約7年修業し、2016年に地元竹田市荻町で「日本刀鍛錬場」を開きました。刀匠とは日本刀を作る刀鍛冶のことですが、鍛造に必要な道具を揃えるのが大変です。今は道具を作る職人がいないので、昔の古い道具をオークションや古道具屋で探し、動物の毛皮など必要な部品を手に入れて、自分で補修して使っています。刀匠自体も高齢で辞められた方が多く、全国でも



日本の名刀が集結するOPAM初の刀剣展「日本の美意識―刀剣と金工―」。今回は竹田市在住の刀匠・興梠房興さんに刀匠という職業や日本刀について、そして今回展示する「蛭丸」の復元プロジェクトについてお話を伺いました。



刀匠・興梠房興さん

現役で活躍されている方は300名くらいです。刀匠は国家資格で大分県内では今年1名合格されたので、現在は僕を含め2名です。豊後(大分県)は元々、備前(岡山県)、美濃(岐阜県)に次いで鍛刀が盛んな地域でしたが、美術刀剣の中で豊後刀は価値を低く見られがちです。しかし、豊後刀創成期の名工「行平(ゆきひら)」の作品など、現代に受け継がれる素晴らしい作品がたくさんあります。

「日本刀の製造方法や特徴を教えてください。」

簡単に言うと、砂鉄を溶かして作る玉鋼(たまはがね)を折り返し鍛錬し、焼き入れた刀が日本刀です。和鋼(玉鋼)を主原料にして、折り返し鍛錬を施し、単一もしくは硬軟合わせたの造り込みをした後、火造り、焼き入れをして作られます。日本刀は平安時代後期には完成されていて、千年の歴史があります。直刀を経て斬撃と刺突をバランスよく行えるよう、独特の反りを持つ優雅な日本刀の姿に変わっていききました。日本刀は武器であると同時に刀身自体が鑑賞に堪える美を持ち、日本が世界に誇れる鉄の芸術です。

「「蛭丸復元プロジェクト」とはどういうものですか？」

大太刀「蛭丸国俊」は、熊本県阿蘇神社に約600年伝わる宝刀でしたが、戦後の混乱期に行方が分からなくなつたという歴史があります。2015年に来国俊が好きな兄弟子の福留房幸ととも



に、クラウドファンディングを利用して一緒に復元しようと、現存する資料を基に在りし日の姿を推察しました。一年以上かけて制作し、阿蘇神社に奉納したのは2017年9月24日でした。兄弟子とは以前にも僕の卒業制作で大太刀を合作しましたが、大太刀を一振りするには多くの費用がかかるため完成できなかった経緯があります。また、この工房を建てる時の地鎮祭でお世話になつた宮司さんが阿蘇神社に向向していた縁もあり、今回の復元プロジェクトに至りました。出資者へのリターン分も含め蛭丸を3振り制作しましたが、今回の展示では、僕らが修業した岐阜の関鍛冶伝承館に寄贈したものが展示されます。会期中は講演会や刀に名前を刻印する「銘(めい)切り」を金属板に行う実演もありますので、日本刀や刀工に興味を持つてもらえればうれしいです。

## 日本の美意識 一刀剣と金工

9/27(金)~10/22(火)

▶大分県立美術館 3階 コレクション展示室

[時間] 9:00~19:00(入場は閉館の30分前まで) ※初日の一般入場は10:00から、金・土曜は20:00まで閉館 [料金] 一般800円(600円) / 大学・高校生 500円(300円) ※ ( ) 内は前売りおよび20名以上の団体料金、中学生以下無料 [問] 大分県立美術館 Tel:097-533-4500

### イベント

講演会

## 刀工のわざと蛭丸の復元

▶大分県立美術館 2階 研修室

10/6(日) 13:30~15:00

講師: 興梠房興(刀匠)  
定員: 80名

※参加費は無料ですが事前申し込みが必要です

## 実演 刀匠による銘切り

9/29(日)

実演: 興梠房興(刀匠) 他

※時間、料金など詳細は大分県立美術館HPをご確認ください。